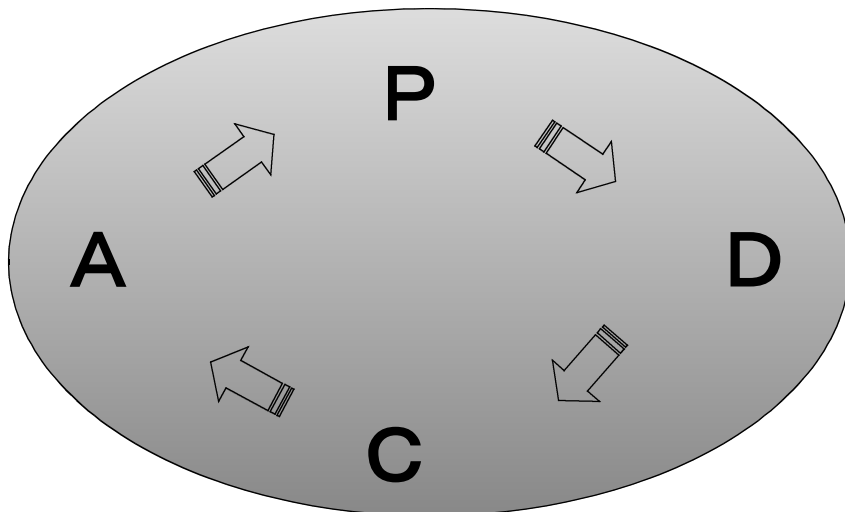


平成26年度

学校評価書



P (プラン) → D (ドゥ = 実施) → C (チェック = 評価) → A (アクション = 改善)
による学校経営

苫小牧市立北星小学校

平成27年3月13日

北星小学校保護者の皆様
北星小学校区町内会長様
北星小学校学校評議員様

苫小牧市立北星小学校長 渡部 哲

学校評価書の配布について

第38回卒業証書授与式まであとわずかの時期となりました。関係の皆様には、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて、保護者の皆様にご協力頂いた「保護者アンケート」やお子さんに行った「子どもアンケート」等の結果を材料に、今年度の学校経営を振り返り、次年度に向けての改善策を立てる学校評価の取組を、地域関係者の皆様の協力も得て行ってきました。つきましては、学校評価書としてまとめましたので配布させていただきます。ご一読頂けると幸いです。
今後とも、北星小学校教育の推進にご理解をお願い申し上げます。これまでのご協力に感謝致します。ありがとうございました。

学校評価書の内容

- 学校評価書
- 保護者アンケート集計表
- 子どもアンケート集計表

学 校 評 価 書

H 2 6 年度 苫小牧市立北星小学校

北星小学校教育目標

豊かな人間性と、たくましい実践力を持った子どもの育成

- 進んで知識を求め、実践力に富んだ子ども 【よく考える子】
- 人間や自然を愛し、美に感動する心豊かな子ども 【思いやりのある子】
- 理想に向かって自らを律し、やりぬく子ども 【ねばり強い子】
- 生命を尊重し、健康でたくましい子ども 【じょうぶな子】

平成26年度学校経営プラン三つの柱

- 第一の柱 「知育」「徳育」「体育」のバランスのとれた教育
- 第二の柱 学校の教育力の向上
- 第三の柱 児童の安心・安全の保障

平成26年度めざす学校像

「学校職員の教育力、保護者・地域の教育参加による教育力、子ども自身の教育力が十分発揮され、互いに育ち合う学びの共同体」

- 子どもにとって『楽しく学びあえる学校』
 - 職員にとって『働きがいがあり専門性を高められる学校』
 - 保護者にとって『安心し信頼できる学校』
 - 地域にとって『身近な存在の学校』
- 【学校づくりの合い言葉】～あったか はあとの 北星の子

今年度は、経営のベースを「大幅異動後3年目の充実深化の時期」と捉えてスタートした。そこで、今年を含めた過去3年間のアンケート結果等から経営を振り返り、次年度へ向かいたい。

昨年度学校評価書から

大幅な異動から2年目が終わろうとする中、保護者・教員ともに、学校が行う根幹的、基本的なことに対する理解が深まり、肯定的な評価が増えているものと思われる。特に今年度は、授業改善を中核に据えた学力向上、それを支える環境整備等を重点的に行ってきたが、自主公開研究会で発信したことなどもあり、それらと関連する項目の評価が高くなっている。

次年度は、これら高評価を得た部分を土台に、3年目の充実深化の時期に入るとおさえ、地道な取り組みを確実にしつつこくしていくことが重要と考える。

→次年度経営のベースに

I 目指す学校像にそっての検証

以下に、本校の教育経営に示した、目指す学校像4点について、各種アンケート結果を踏まえ検証する。

○子どもたちにとって、「楽しく学び合える学校」に関して

子どもアンケートから
 A＝そう思う B＝どちらかと言えばそう思う
 C＝どちらかと言えばそう思わない D＝そう思わない

		Aとした割合			A Bの割合		
		24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
1	学校は楽しい	68.5	66.5	63.2	91.0	92.1	90.3
2	国語の学習はよくわかる	47.1	53.7	48.5	83.4	89.3	87.3
3	算数の学習はよくわかる	61.9	58.0	64.3	91.7	89.0	92.5
4	学校で本をよく読む	51.9	44.8	47.4	77.2	77.5	71.6
5	あいさつや返事を良くする	51.1	52.7	53.6	86.0	85.1	89.0
6	掃除を一生懸命する	55.2	59.4	59.6	92.4	90.0	94.4
7	友だちに優しく接し助け合うことができる	48.1	46.3	47.1	87.9	89.4	88.3
8	決まりや約束を守っている	43.4	48.0	45.0	82.6	88.9	86.9
9	休み時間は運動して遊ぶことが多い	59.7	56.0	61.7	77.0	74.9	79.9

【子どもアンケートの結果から】

- 設問1「学校は楽しい」で9割以上がAかBに回答している。就寝時間を除けば、1日の中で、家庭と同程度あるいはそれ以上を占めるのが学校生活である。ここでの時間が基本的に楽しくなければ子どもにとって不幸である。
→A B回答していない残り1割の子どもたちの有意義な時間、居場所づくりのため、一層児童理解に努めなければならない。
- 設問2・3「国語や算数の時間はよくわかる」においては、9割前後がよくわかると回答している。しかしながら、子どもが「よくわかる」と感じている実態と、6年生で行う全国学力量習状況調査や他の学年で行う標準学力テストにおける実際の学力評価が一致しない点も見受けられる。
→各学年における実態を分析しながら、子どもの実感としての「よくわかる」が、実際の学力点と一致してくるよう授業改善を進め、確かな学力を保証して行かなければならない。(このことに関しては今年度の重点課題の頁で詳しく示す。)
- 設問6「掃除を一生懸命する」割合は、どの年度でも高い。担当教諭がしっかりとついで、日常的にまじめに取り組んでいる。校区各町会から雑巾の寄贈も毎年あり、感謝したい。
- 設問9「休み時間は運動して遊ぶ」について、A回答は、6割をこえ向上しているが、A B回答では、8割に達していない。体力向上を組織的に進める必要もある。
→「運動して遊ぶ」習慣を是非とも身につけさせたい。そのために、学級づくりにおける「全員遊び」の時間設定や外遊びの奨励などに取り組みたい。

○職員にとって「働きがいがあり専門性を高められる学校」に関して

内部（教職員）アンケートから

- 4・・・十分達成
 3・・・概ね達成
 2・・・どちらかと言えば達成していない
 1・・・ほとんど達成していない

上記4段階評定の平均を下に示す

			24年度	25年度	26年度
目標	教育目標	「進んで知識を求め、実践力に富んだ子ども」 よく考える子（知）に育ったか。	3.0	3.3	2.7
		「人間や自然を愛し、美に感動する心豊かな子ども」 思いやりのある子（情）に育ったか。	2.7	2.9	2.5
		「理想に向かって自らを律し、やりぬく子ども」 ねばり強い子（意）に育ったか。	2.8	2.9	2.6
		「生命を尊重し、健康でたくましい子ども」 じょうぶな子（体）に育ったか。	3.1	3.2	2.7
教育プラン・学力向上プラン	授業づくり	基礎基本の定着を図る授業づくりが展開できたか。また、授業の中でICT機器を有効に活用することが、児童の学ぶ意欲や授業の改善に効果があったか。	3.1	3.4	2.9
		多様な学習形態（ペア・グループワーク）やノート指導などを通して、児童の学びの深まりが見られたか。	2.8	3.1	2.8
	家庭学習	家庭学習の定着などの改善が見られたか。	2.9	2.8	3.0
	学力調査	学力調査結果を、授業や家庭学習の取組み等に反映させることができたか。	2.8	2.9	2.6
	少人数指導	基礎・基本的な内容の定着を目指す、3～6年生算数の習熟度別の指導やT・Tが計画的に進められたか。3年は退職外部人材による指導。	3.3	3.5	3.3
		長期休業中の学習支援は効果的であったか。	3.1	3.3	3.2
	学びのサポート 読書活動	図書室の環境整備や運営等、子どもの読書習慣の育成する手立てが図られたか。	3.2	3.3	3.3
		市中央図書館との連携や活用が図られたか。	2.8	2.9	3.2
		読み聞かせボランティアや図書ボランティアと、効果的に連携できたか。	2.9	2.9	3.2
	ICT教育の充実	教育の情報化に向けた教育環境整備が計画的に進められたか。	3.4	3.6	4
	食育	食育に関わる指導計画の作成・授業実践・保護者への啓蒙等が図られたか。	2.9	3.1	3.0
	性教育	性教育の指導計画の作成・授業実践・保護者への啓蒙等が図られたか。	3.1	2.9	3.0
	生活習慣	児童の実態を把握し、家庭や地域と連携して児童の望ましい生活習慣を育成できたか。	2.8	2.6	3.0
	特別支援教育	子ども支援委員会やケース会議等で、適切な情報の共有やアプローチの確認が行うことができたか。	2.9	2.9	2.9
児童の安全確保	欠席の多い児童についての情報を共有し、関係機関と連携しながら組織的に対応することができたか。	3.1	2.8	3.1	
	地域や保護者と連携して、校外における児童の安全確保の取組が進められたか。	2.9	2.8	3.0	
学校運営	校務分掌	分掌間、職員室スタッフと担任間等、職員間の連携はとれていたか。	3.2	2.9	3.2
		分掌、特別委員会等の組織は良く機能していたか。	3.1	2.9	3.0
	諸表簿の管理	諸表簿の整理・記録・保管は適切に行われていたか。	3.3	3.2	3.3
		会計処理は、正確・適正に行われているか。	3.4	3.4	3.2
	職員会議	校務部会での検討や資料等の配布など事前の準備は万全だったか。	3.0	2.9	3.1
学校組織	自分の考えを積極的に発言したか。	2.7	2.5	2.7	
	教職員一人ひとりの問題意識や悩みについて、気軽に相談できる職場の人間関係をつくれたか。	3.3	3.0	3.2	

		24年度	25年度	26年度	
教育課程	教育課程	各教科、総合的な学習の時間、外国語活動、道徳、特別活動における基礎的・基本的内容の定着は図られたか。	3.0	2.9	2.8
		授業時数は確保できたか。	3.5	3.4	3.2
		週時程・日課表・特別日課などが、教育活動を円滑に推進する上で効果的であったか。	3.3	3.3	3.1
		年間指導計画の改善点の記録など、教育課程の評価・改善が図られたか。	2.8	2.9	2.7
	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間は、全校や学年の目標や内容を踏まえた学習活動となっていたか。	2.8	2.7	3.1
		道徳的な価値観を形成し自己の生き方を考えさせる授業実践が行われたか。	2.7	2.7	2.7
		全ての項目を扱いながらも、学年の重点目標を達成させる実践が行われたか。	2.6	2.6	2.7
	外国語活動	副読本や「心のノート」を効果的に活用できたか。	2.4	2.4	2.4
		コミュニケーション能力の素地を養うために、教育課程の編成と実践が図られたか。	2.8	2.9	2.9
	特別活動	外国語活動を円滑に行うため、指導体制と教材の準備、外部講師等の調整が図られたか。	2.9	3.1	3.0
学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、自主的・実践的な態度を育てることができたか。		2.9	3.0	2.8	
評価活動	指導計画や指導方法の改善を活かす評価活動が効果的に行われたか。	2.8	2.9	2.8	
	『通知表』の電子化は、事務軽減に効果があったか。	3.6	3.8	3.6	
学級	学級経営	児童理解の手だては十分だったか。	2.9	2.7	2.7
	教室環境（清掃・掲示物・整理整頓等）整備は十分だったか。	2.9	2.8	2.7	
研修	研修	校内研修は組織的な研修として進められたか。	3.4	3.4	2.8
		校内研修及び教育実践発表会で成果を上げることができたか。	3.3	3.6	2.8
		研究会、研修講座等に積極的に参加し、研究推進にいかされているか。	2.8	3.1	2.9
生徒指導	生徒指導	職員間の共通理解のもと共感的な生徒指導となっていたか。	3.1	2.9	2.9
		児童の人権に配慮した生徒指導を行ったか。	3.1	3.2	2.9
		問題行動発生後の対応は迅速だったか。	2.8	3.1	3.3
		いじめ撲滅への対策は適切に行われたか。	2.9	3.1	3.0
		「生徒指導たより」などで情報提供や啓発を図ることができたか。	3.1	3.2	3.1
安全	安全指導	交通事故や不審者対応など、安全指導は徹底できたか。	3.3	3.2	3.0
		施設設備の安全点検は十分になされたか。	3.2	2.9	2.9
		危機管理マニュアルは機能していたか。	3.1	3.0	2.7
保健体育	体育・保健指導	運動の楽しさや充実感を味わうことができる指導の工夫に努めたか。	3.1	3.2	2.9
		健やかな体を目指す体力づくりの推進が図られたか。	3.1	3.3	3.0
	給食時の指導は十分であったか。	3.0	2.8	2.7	
事務	事務	保健指導は十分であったか。	3.1	3.2	3.1
		学校予算は計画的に執行できたか。	3.4	3.3	3.4
連携	保護者・地域との連携	備品の整備・廃棄・管理は適正になされたか。	3.1	3.1	3.2
		破損箇所・危険箇所の補修はなされたか。	3.2	3.2	3.2
		校舎内外の美化はよくできていたか。	3.2	3.1	3.0
		児童の指導を通して、保護者との信頼関係を築けたか。	2.8	2.9	2.8
連携	保護者・地域との連携	参観日の保護者の出席は期待通りだったか。	3.0	2.8	2.9
		本校PTAの活動は活性化していると思うか。	2.7	2.6	2.7

【内部（教職員）アンケートの結果から】

- 教職員の大幅な入れ替えから2年が経過した昨年度においては、「教育目標への達成度合い」や「授業づくり」の項目において、大きな達成感が感じられる評価となっていたが、今年度はその多くで辛口のマイナス評価となった。
- ・教育目標の達成具合については全ての項目でダウンした。
 - ・取り組みの一つ一つが教育目標を意識したものとならなかったからなのか、現実的に教師から見ると子どもの成長に満足を得られなかったのか。
 - ・一次年度は、学校運営の一つ一つについて、目標や評価基準を持ち、教育目標達成の意識を持って取り組まねばならない。

- ・「授業づくり」や「研修」の項目がダウンした。
 昨年は、「算数科における授業改善」を中核として取り組んで、その成果を「実践発表会」として公開した年であった。研究のまとめと公開と言うことで大きく盛り上がったと判断しているが、今年は、研修テーマを変えて1年目（算数科から国語科へ）、どう取り組めば良いか手探りの年であった。
 →次年度は、今年度の苦しんだ反省に立ちつつ、方向性をはっきりとさせ、3年目（平成28年度）にはまとめを公開するという意気込みで取り組みたい。そのために、研修組織の強化も図りたい。
 また、記述で指摘された「全体研修で討議されていない情報の還元のある方」や「研究授業の早期計画と周知」等について改善するとともに、「単元計画の立て方」については、国語の授業改善を進める上での重要な視点として捉え進める必要がある。

- 問題行動発生後の対応については、少しずつ評価が上がっている。担任だけに背負い込ませず、学年や生徒指導部を中心に協働して対応している実感があるものと思われる。
 →今後も、基盤となる学年・学級づくりを計画的に、また、子どもの変化にアンテナを張った経営を心がけたい。問題が発生した時は、これまで以上にチームとしてスピーディーな対応を心がけたい。職員間の報告（ほう）・連絡（れん）・相談（そう）を当たり前にしたい。
 →生徒指導に関わり、「通学路を守っていない児童がいる」との指摘が保護者アンケートの記述に見られる。指導を徹底したい。

- 「家庭学習」の項目では評価がアップしている。
 →これに関しては、今年度の重点の頁で取り上げる。

- 「少人数指導」や「学びのサポート、読書活動」については、3年間にわたり概ね高評価である。また、係で別に行ったTTや習熟度別少人数指導に関する子どもアンケートでも、肯定的な回答が多くなっている。
 →これに関する内容は、今年度の重点の頁で取り上げる。

- 「児童の安全確保」や「生徒指導対応」について、概ね高評価となっている。
 →危機管理黒板の活用や連絡なしでの未登校児童への対応、問題行動発生時の対応等について、スピード感ある対応を今後していきたい。

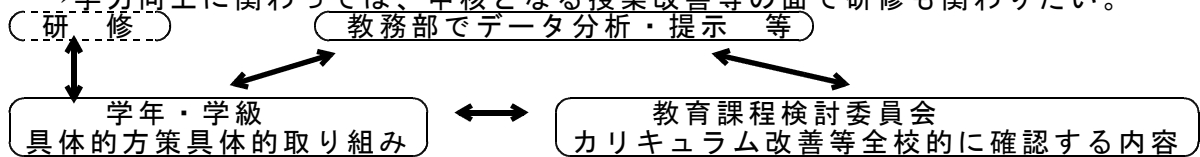
- 「総合的な学習の時間」に関する評価が上がってきた。「福祉」について学ぶ等、内容の見直しもあった。
 →今年度の改善の流れを大切に、総合の目標や学び方に対してしっかりと見直しを持った取り組みを進めたい。

- 「道徳における副読本等の効果的な活用」については、評価が低い。主として使う教材が変更となり、混乱した感がある。
 →今後、落ち着いて教材研究し効果的な活用を図りたい。道徳の扱いに関する今後の動向も注視したい。

- 「保健体育」に関しては、概ね高評価であるが、3年間では下降気味である。体力向上先導的総合実践事業も踏まえた初年度として、今年度体力向上を意識した取り組みを行ってきた。
 →カリキュラムの整備等も行い、次年度も取り組みを継続する。

- 校務分掌に関する設問では、「職員間の連携」や「分掌や特別委員会の機能」において3年間概ね高評価を得ている。
 →次年度も、係で背負い込まず、校務部会でしっかり共有することや、学級学年経営についても、協働体制で進めたい。

- ・記述において、「学力向上のための流れや仕組み」が、きちんとしていないという指摘があった。
 →これに関しては、下図のように、学力学習状況調査等の自己採点や元データの分析提示は、教務部を中心に（担任作業含む）、具体的な方策は学年が立て実施、全校的な内容として教育課程検討委員会が各学年の具体的な内容を吸い上げまとめ、以後につなげるというこれまでの体制をはっきりと意識し進めたい。
 →学力向上に関わっては、中核となる授業改善等の面で研修も関わりたい。



○保護者にとって「安心し信頼できる学校」に関して

保護者アンケートから

【学校全般に関することについて】

A = よくあてはまる B = どちらかと言えば当てはまる
C = あまりあてはまらない D = まったくあてはまらない

		Aとした割合			ABの割合		
		24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
1	『北星小教育プラン』は、未来を生きる子どもたちの教育方針にふさわしいと思いますか。	28.0	34.2	37.8	76.5	83.0	86.3
2	保護者や地域の参加を得ながら学校教育を進めていこうとする北星小学校の教育方針に、共感していただけますか。	48.9	50.4	55.0	89.1	92.7	95.5
3	北星小学校は、人付き合いや学習で困り感を持っている児童へ特別の支援を行っていることをご存知ですか。	35.2	41.9	44.3	62.9	72.3	79.4
4	地域の協力を得ながら行う、不審者被害・交通事故防止等、安全・安心への取組みは、効果を生み出していると思いますか。	31.8	32.7	38.9	82.6	76.2	87.0
5	学校から家庭への連絡は、適切に行われていると思いますか。	42.4	51.5	48.5	84.8	92.7	92.4
6	学校は、保護者が必要なとき、気軽に足を運べる雰囲気になっていると思いますか。	40.9	43.5	42.0	85.6	85.0	84.4
7	学校は、児童の学習に効果が上がるように、図書室やコンピュータ室、ICT教室等の学習環境や、屋外の教育環境の整備を進めていると思いますか。	25.8	39.2	36.6	76.6	86.9	80.53

【お子さんの生活に関することについて】

A = よくあてはまる B = どちらかと言えば当てはまる
C = あまりあてはまらない D = まったくあてはまらない

		Aとした割合			ABの割合		
		24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
8	お子さんは、授業が分かりやすいと言っていますか。	50.8	49.6	55.3	90.2	91.9	87.4
9	お子さんは、授業が分かりやすく楽しいと言っていますか。	32.6	37.0	34.0	79.6	83.5	83.2
10	お子さんに、宿題を含めた最低限の家庭学習の習慣が身に付いてきましたか。	40.5	47.7	45.5	84.1	85.7	88.2
11	朝の読書や読み聞かせも含めて、お子さんに家庭での読書習慣が身に付いてきましたか。	26.9	30.0	31.3	64.4	68.9	68.3
12	お子さんに、「早寝・早起き・朝ごはん」など、基本的な生活習慣が身に付いてきましたか。	43.2	43.5	44.7	85.6	86.2	84.7
13	お子さんに、年齢相応の健康維持能力や運動能力が身に付いてきましたか。	42.1	47.7	47.7	88.7	91.5	92.4
14	先生は、お子さんの相談や連絡に、適切に応じてくれますか。	48.9	58.9	54.6	85.2	94.2	88.6
15	先生は、お子さんのことを理解してくれていますか。	43.2	52.3	47.0	84.5	92.7	87.8
16	先生は、お子さんのまちがった行動を、適切に指導してくれていますか。	47.7	57.3	53.1	86.0	91.5	91.6

【あなたご自身のことについて】

A = よくあてはまる B = どちらかと言えば当てはまる
C = あまりあてはまらない D = まったくあてはまらない

		Aとした割合			A Bの割合		
		24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
17	あなたに子育ての悩みを相談できる人が、周りにいますか。	61.7	71.2	70.7	94.7	92.2	94.3
18	あなたは子育てに関する学習会や交流会があれば、参加したいですか。	14.0	11.9	12.6	48.1	36.5	50.8
19	子どもの基本的な生活習慣の育成に向けて、学校と連携しながら取り組んでいますか。	18.2	17.7	19.5	69.3	73.5	74.1
20	P T A 活動には、思うように参加できていますか。	15.5	20.0	17.94	62.1	60.4	58.8

【保護者アンケートの結果から】

○学校の基本的な方針についての設問1～4について、肯定的な回答の割合が、3年間で増加している。

- ・特に、設問1は、一昨年より10ポイントのアップ（A B回答）となっている。
- ・設問2の保護者や地域との連携については、何と95%以上から共感を得ている（一昨年比6.4ポイントアップ A B回答）
- ・設問3の地域との協力による安全・安心の取り組みにおいても着実に評価が上がっている。
- ・設問3は、特別支援教育に関する項目であるが、他項目と比してまだ割合は低いものの、一昨年より16.5ポイントのアップ（A B回答）である。

→教職員一人一人の真摯に教育に当たる姿勢によって、上記のような学校経営の根幹をなす部分において、多くの保護者から信頼され、お子さんを預けられていると言ふことに感謝し、自信を持って、しかしおごることなく次年度も学校運営を進めなければならない。

→今後とも、現状の経営方針をベースに確かな教育活動を展開し、さらに子ども・保護者とともにある「開かれた学校」として次の3点を積極的に進める。

- ・日常的にオープンで保護者の相談に応じられる学校づくり
- ・学級通信、学年だより、各分掌だより、学校だより等で確実に情報を発信する学校づくり
- ・ホームページやメール配信等で情報をいち早く発信する学校づくり

→特別支援教育に関しては、「インクルーシブ」「ユニバーサルデザイン」をキーワードに、さらに取り組みを進めるとともに、積極的な情報発信で、理解を広げていかなければならない。（これに関しては、重点課題の頁でも触れる。）

○保護者とともにある学校という意味では、気軽に足を運べる学校かを聞いた設問6が若干のダウン（-1.2ポイントダウン A B回答）である。記述を見ても肯定的なものが多数（23件）あるものの、否定的な指摘として、担任不審や担任のミスや対応に対する不満、宿題等の出し方などへの意見が綴られたものも見られる（15件）。

→後者のような内容が限りなく0になるよう、日常的なコミュニケーション、説明、責任ある職務遂行を心がけなければならない。

○宿題を含めた家庭学習の習慣を聞いた設問10では、一昨年に比べ4.1ポイントのアップ（A B回答）である。

→宿題を含めた家庭学習に関しては、今年度の重点の頁で取り上げる。

○保護者自身について質問した設問17から20について。

設問17「あなたに子育ての悩みを相談できる人が、周りにいますか」において、毎年90%以上がA B回答している。これは、本校校区の強みと思える。また、仕事等で忙しい中、毎年6割の保護者が「P T A 活動に思うように参加している」と回答していることにも感謝しなければならない。

記述において、「朝の読み聞かせ（学級P T A）が割り当てられても仕事でいけない」などと言った声がある。学校としては、「図書ボランティア」や「朝の読み聞かせ」の活動は、とてもありがたく、教育効果も大きいと評価・判断している。

→工夫できるところは工夫し、参加しやすい体制をとればと思う。

○地域にとって「身近な存在の学校」に関して

本校校区を支える土台として、成熟した町内会の存在がある。町内会を中心とした地域の方々が、地域防災や地域行事、子ども会行事、防犯、交通事故防止等様々な面で活動している。各町会の文化レベルも高い。

保護者アンケート

A = よくあてはまる B = どちらかと言えば当てはまる
C = あまりあてはまらない D = まったくあてはまらない

		Aとした割合			ABの割合		
		24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
4	地域の協力を得ながら行う、不審者被害・交通事故防止等、安全・安心への取組みは、効果を生み出していると思いませんか。	31.8	32.7	38.9	82.6	76.2	87.0

○上のように、各町会における朝の交通安全指導や防犯の取り組みについて高評価を得ているし、記述においても「安心、安全の面で、通学路に地域の方がいてくれるのがうれしい。」というような内容が見られる。

○今年度の地域・学校施設での事故や不審者情報（校区内）は概ね以下の通り。

4月	草笛公園で他校児童とトラブル
	不審者情報 指導
5月	学校西玄関 投石でガラス破損
6月	不審者情報 指導
	学校西玄関アクリル板外側からの圧力で破損
7月	火遊び
9月	不審者情報 指導
10月	しらかば町で投石 民家のガラス破損
1月	不審者情報 指導
2月	不審者情報 指導

昨年は、公園でのペンキの落書きや地域の方に悪態をつくなどの報告があったが、今年度そういう事例は減った。

→校区において下校後の時刻において不審者が目立つことから、放課後の校区巡回をPTA組織を通して、子ども安全委員会に依頼したい。
パトロール時の服装(統一ジャンパー等)を工夫し、抑止効果を高めたい。

- ・学校関係者評価会議において、新入学児の「お迎え登校」や「地区別登校」があったが今は実施していない。どうなったのかという指摘があった。
過去を調べたところ、価値ある活動であるが、「お迎えに行く児童が本人の通学路外に行くこととなり問題となった。」
「児童数減により、お迎えに行く数、迎えられる数、居住地のばらつきなどで、都合良く組めなくなった。」
「地区別集団登校とした場合、やはり通常の通学路を離れる児童が出ることや、欠席の子をいつまでも待っていた」
などの問題があり、廃止したとのこと。

→今後は、
・新年度、在校児童に、「家の周辺にいる新入生を知らせる。」などして、登校時間帯に新入生を見かけたら声かけをしたり、一緒に来たりするなどの指導をする。
・教職員やPTAの立ち番において、見過ごされている地点があるという指摘が保護者アンケートにおいてあるので、配慮して設定し、見守ったり声かけをしたりしていきたい。

→子どもの健全育成の面から、学校での生活や遊びの様子、地域での生活や遊びの様子について、交流し、大きな事故が起きないように、これからも配慮したい。

○自然災害に備えた危機管理において、地域との連携が重要と考える。

集中豪雨	平成25年8月27日	夕方児童下校後
	平成26年9月11～12日	児童登校時刻から
	※12日は全市的に臨時休業	
暴風雨	平成26年12月16日・17日	全市的に臨時休業

→暴風や暴風雪に関する対応においては、気象庁の予報を早くに知ることができるので、前日中の対応がほぼ可能な状況にある。(市教委を通して気象庁と連携)

→昨年、今年と発生した集中豪雨では、局地的に突然豪雨となり、予めの対応はきわめて難しいため、近隣校、地域各町会と連絡を取り合い、素早く対応する体制を取りたい。

本校校区で、集中豪雨の際に特に注意が必要な場所

豊木川とそこに架かる橋周辺 苦小牧川とそこに架かる橋周辺

→学校関係者評価会議(2月17日)において、話題となり確認された内容
・登校時間帯に集中豪雨になり、臨休の連絡がない場合においては、保護者の判断で登校させないと言うことがあって良い(家庭の判断は重要)。
(このことについて、いわゆる「公欠」[欠席として扱わない]として取り扱うことができることは法的に認められている。[学校教育法施行規則第48条])

・町会との連携の窓口をはっきりさせておく。

学校窓口=教頭74-2155

桜木町会=町会長さん

しらかば東町会=町会長さん 防犯部長

啓北町=町会長さん

しらかば中央=町会長さん

・グラウンドの整備をしてほしい。豪雨時グラウンドの水が南側道路へ流れ出し、桜木しらかば総合福祉会館方面が冠水する。学校が避難所になっていても行けない。暗渠・浸透マス・蛇管などを再整備しないと緊急時に対応できない。

○「総合的な学習の時間」の内容を見直すなどし、地域の協力を得て行う学習が増えた。

今年度教育課程に位置づけたものなど

☆総合的な学習の時間での「地域・福祉」の学習として

5年生 老人介護施設(ライフスプリング桜木)訪問

4年生 耳が聞こえない人・声が出せない人の気持ち

市社会福祉協議会、社会福祉部社会福祉課の協力

3年生 地域交流・遊び 桜木町同心クラブの協力

☆児童会活動で ゴミO運動

☆各学年の見学学習

→学習活動で支援をいただくことに関しても、今年度から教育課程に位置づけたものをさらに継続・発展させるとともに、新たな連携も模索したい。

用語解説

学校関係者評価会議～第三者から学校経営に意見をもらうために組織し、毎年2月頃に開催しています。校区町会の代表者・学校評議員・PTA役員にお願いしています。

Ⅱ 今年度の重点課題から

(1) 学校耐震化工事への対応とそれに伴う教育環境の整備、生活指導に関して

各種アンケートにおいて、耐震化工事に直接触れる設問は設定していなかった。保護者アンケートにおいて、「早く終わればいいなと思います。」という記述が一件あった。取り立てて指摘はいただいていないものの、「安全に、早く終了してほしい」というのが、関係者の誰もが思うところだと認識したい。

① 工事に対応した教育環境の整備に関して

○学校（総務部）の反省で、対応が「後手後手」になったとある。「行政との連絡打ち合わせ」「業者とのやりとり」「教職員への周知・相談」「先を見通しての教室移動」等々なかなか大変である。

以下の点について、注意する。

→現在行われている第一期工事の3月末終了に伴い、単純に教室配置を元に戻すのではなく、次年度7月からの第二期工事を見越しての作業計画を早期に立て周知する。

→新年度からの臨時的教室配置に添った、トイレや廊下の使用、清掃箇所や清掃用具配置を考える。

→校舎外のフェンス取り付けに伴う注意事項等に見通しを持ち、安全対策を徹底する。

② 生活指導に関して

○今年度、校舎外側の工事現場に児童が侵入していると近所の方からの連絡が一件あった。

○校舎内においては、児童が工事中の教室へ入り込むとか、工事関係者とトラブルになるなどの事例はなかった。

→次年度も、工事に伴う安全指導に十分気を遣い、安全対策を徹底する。

③ 校内体制の整備に関して

→次年度、引き続き下の体制で進む。

行政・業者との打ち合わせ→事務職員・教頭・校長
行政・業者との日常的な連絡・調整→教頭
校内体制の整備に関わる打ち合わせ→耐震化対策委員会（＝校務運営会議）

④ 通常行う教育環境の整備に関して

→本来計画的に行う環境整備（各教室・各特別教室・ICT室・学習室等）を行うとともに、耐震化に関わり臨時に教室となる場所などについては、子どもの生活、学習をしっかりと保証するよう配慮しながら臨機応変に対応する。

(2) 授業づくり、授業改善を中核に据えた学力向上に関して

- ①基礎的な知識や技能を手がかりとして、見通しを持ち、考え、表現し、ふりかえる力を付けさせる授業の創造（知識・技能の活用能力の育成・探究能力の育成）
- ②子どもの教育力を活かした学級での話し合い活動や、ペア・グループ学習の導入による、伝え合い学び合う、厚みのある授業の創造（活用力、コミュニケーション能力の育成）
- ③学校と家庭における学習の連続を実現する家庭学習の取組み

子どもアンケートから

A = そう思う B = どちらかと言えばそう思う
C = どちらかと言えばそう思わない D = そう思わない

		Aとした割合			ABの割合		
		24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
2	国語の学習はよくわかる	47.1	53.7	48.5	83.4	89.3	87.3
3	算数の学習はよくわかる	61.9	58.0	64.3	91.7	89.0	92.5

子どもアンケートにおける設問2・3「国語や算数の時間はよくわかる」においては、9割前後がよくわかると回答している。しかしながら、子どもが「よくわかる」と感じている実態と、実際の学力評価が一致しない点も見受けられる。各学年における実態を分析しながら、子どもの実感としての「よくわかる」が、実際の学力点と一致してくるよう授業改善を進め、確かな学力を保証して行きたい。

全国学力学習状況調査・標準学力テストにおける本校の学力実態等

◎6年生は、全国学力学習状況調査で、全国や全道と比して厳しい状況にある。

算数において

- 数量関係・図形・数と計算等全ての領域に於いて未だに課題が多い。
- 同一学年を標準学力テストの結果で経年比較すると、少しずつではあるが向上してきている。これは、指導方法工夫改善加配事業や退職人材活用事業を活用して、TTや習熟度別少人数指導をできる限り取り入れ、きめ細かく指導に当たってきた成果と捉えている。

国語において

- 全ての領域において課題が多いが、特に「書くこと」については全国や全道と比して厳しい状況にある。

◎市が行う標準学力テスト（4・5年生）及び、本校で行う標準学力テスト（2・3年生）の結果を見ると学年差が大きい状況にある。

- 5年生**～全国水準あるいは全国水準以上の状況。
- 4年生**～全国水準を下回る状況。
- 3年生**～ほぼ全国水準の状況。
- 2年生**～全国水準を下回る状況。

※平均が全国と比して低い学年は、特定の領域において落ち込みが見られるというよりは、どの領域も全般的に低い傾向がある。

◎児童質問紙や学校評価の子どもアンケート、教職員（内部）アンケートを分析すると

- 家庭学習に関して、学校が休みの日の学習時間が不足している。
- 学力向上の具体的方策の立案が、各学年に任されている傾向があり、全校的に知恵を出し合う状況になっていない。

上記のような実態に鑑みて、次年度は下記のような取組みをこれまでの土台に立って行う。

【次年度は】

→次年度も個に応じた指導を充実させ、結果として児童の学力を確実に向上させる。

TT・習熟度別少人数指導に関わる児童アンケート(12月実施)から

○TTはわかりやすい

3年生98% 4年生81% 5年生95% 6年生81% 全学年88%

○習熟度別少人数指導はわかりやすい

3年生93% 4年生85% 5年生95% 6年生70% 全学年86%

※「わかりやすい」という感じが、実際の学習評価に結びつくように

算数において

→加配教員を算数専科的に位置づけ、TTでの主指導教師(T1)として、少人数指導にあつては、課題の明確なグループを担い課題解決にあたるようにする。

→個別学習やペア、グループによる多様な形態で学び合いが実現するために、スタンダード化された「算数科の授業づくり(平成25年本校作成)」、「苦小牧っ子学力アップ!ハンドブック」等を積極的に活用する。

国語において

→国語科の授業改善を校内研修のテーマに取り組みを継続する。特に「単元を貫く言語活動」を明確に位置づけた単元計画、そして、取り上げるべき指導事項を落とさないカリキュラムづくりを着実に行う。

→「書くこと」に焦点を当てた取り組みを工夫する。

→「苦小牧っ子学力アップ!ハンドブック」等を積極的に活用する。

ICT機器の活用

→「ICT機器を効果的に活用するために(平成25年度本校作成)」を本校における日常実践の最低ラインとして押さえ、一層の充実を図り、児童の学力向上につなげる。

家庭学習

○保護者アンケートにおいても、教職員(内部)アンケートにおいても「家庭学習」の項目では評価がアップしている。保護者から見ても、教師から見ても、子どもの家庭学習の質的向上が感じられているのであればありがたいし、取り組みの成果である。双方で評価が一致しているのは良いことと言える。

但し、「自主ノートの使い方について、もう少し説明がほしい。」とか「取り組みの仕方がわからない」と言う保護者の声がある。

→保護者からの声に関しては、しっかりと答えていかなければならない。

→家庭に対し「家庭学習の手引き」を配布するだけでなく、折々で双方向的な連携ができるよう取り組むようにする。

校内体制

→学力向上方策をたてるに当たり、教務部と「教育課程検討委員会」、「教育課程検討委員会」と各学年の連携を強化する。

(3) 家庭・地域と連携した子どもの生活習慣の改善に関して

子どもアンケート（家庭で記入）の結果
 A = よくあてはまる B = どちらかと言えば当てはまる
 C = あまりあてはまらない D = まったくあてはまらない

		Aとした割合			A Bの割合		
		24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
1	朝食を毎日食べている	90.7	88.8	88.0	96.9	94.0	95.5
2	お手伝いをよくする	40.5	34.0	34.2	80.3	74.7	77.8
11	近所の人に出会ったらあいさつする	57.0	50.2	60.7	87.8	88.5	89.2

		2時間以上の割合			3時間以上の割合		
		24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
9	普段、1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。	40.8	40.6	36.6	18.0	11.7	15.8
		本校6年生	43.8		本校6年生	25.0	
		全国6年生	61.1		全国6年生	37.8	
10	普段1日にどれくらいの時間、テレビゲームやインターネットをしますか	14.9	12.9	21.6	6.9	4.2	9.5
		本校6年生	29.1		本校6年生	20.8	
		全国6年生	30.1		全国6年生	16.9	

		1時間以上の割合			2時間以上の割合		
		24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
5	学校の授業以外2、普段1日どれくらい学習しますか	16.3	13.6	22.6	3.7	1.6	4.5
		本校6年生	60.4		本校6年生	20.8	
		全国6年生	62.0		全国6年生	25.8	

- 「朝食を毎日食べている」割合は、この3年間常に高い。
 →少数ながら、基本的な生活習慣が身についておらず、遅刻が多かったり、学習意欲に欠ける児童もおり、家庭とも連携しながら指導にあたる必要がある。
- 児童にとって「早寝・早起き」が成長によいこと、「朝ごはん」をきちんと食べることが一日の生活や脳を活性化させることによいことが明らかになっている。
 →家庭での基本的な生活習慣づくりについて「さわやかリズム週間（早寝・早起き・朝ごはん）」の取り組み等を次年度も続ける。
- 「近所の人に出会ったらあいさつする」について、昨年「かげり」が指摘されたが、学校関係者評価会議において、地域の方の声を聞くとやはり残念な実態のようである。低学年や中学年では、元気なあいさつがあるが、高学年となり、集団で登校してきた時には寂しい実態があるようである。また、個別に見ても、やはりあいさつできない児童もいる。
 →引き続き、元気なあいさつを奨励し、児童会等でも取り組むとともに、地域での声かけなどをお願いしたい。
 シャイな年頃になった子どもたちには、大人の側から声かけをしたい。
 北星と言え「あいさつ」を取り戻したい。
- 保護者アンケートで「職員があいさつしない」という指摘があった。
 →大人から範を示したい。
- 家庭での学習時間は、1時間以上する子どもの割合も2時間以上の割合も、昨年落ち込んだものの今年度は増加している。6年生について全国と比べても、2時間以上の割合が若干低いものの極端に低いわけではない。家庭学習については、保護者アンケートにおいても、向上が見られる（保護者アンケート設問10）。
 →家庭学習の改善が図られつつあるが、質においても時間においてもさらに向上させたい。
- テレビやビデオ・DVDの視聴時間は、減る傾向にあるが、逆に、テレビゲームやインターネットの時間は、増加傾向にある。全国と比して多くない。
 →一家団欒や食事や入浴など基本的な生活時間を大切にしつつ、宿題や家庭学習、読書の時間を増やしたい。そのための手だてを学校との双方向的なやりとりによって構築したい。

(4) 特別支援教育の充実に関して

保護者アンケート

		Aとした割合			ABの割合		
		24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
3	北星小学校は、人付き合いや学習で困り感を持っている児童へ特別の支援を行っていることをご存知ですか。	35.2	41.9	44.3	62.9	72.3	79.4

- 保護者アンケートにおいて、特別支援教育について知っている割合は増加しているが、他の項目と比べるとまだ低い。
さらに、「昔から特別支援学級があるのですが、通常学級の子の理解が少ないと感じます。登下校時の悪口、からかいがあると耳にし、とても悲しい思いをしています。なぜ支援学級にいるのか、何が困っているのか、どう接するべきか、してはいけないことはあるのか、など理解してもらえていないように感じます。・・・改善できることはしていけたらと思っています。学年が上がるにつれ、距離が出るのも寂しいところですよ」という記述による指摘もある。
- 教職員の内部アンケートにおいても、「情報の共有はできたと思いますが、具体的にどうアプローチするのか、どう動いているのか見えないところがあったと・・・」という指摘もある。
→「インクルーシブ」「ユニバーサルデザイン」の考え方や方向性を共有し、「運動会への参加の仕方」や「日常の交流学習」等々において進歩も見られたが、さらに何をすべきか、何ができるかを教職員が研修を積み、具現化していかなければならない。
→児童が考える場面をもうけたり（道徳や特活）、保護者へもお知らせ（各種たよりやHP）したりするなど、工夫していかなければならない。

【具体的には】

- 各種行事への参加の仕方などについて学年・ブロック・学校全体で議題にし、具現化を図る。
- 教員の校内研修における特別支援学級部をなくし、通常のブロックに入る。
- 特別支援学級の研究授業を通して、個に応じた指導のあり方を教師自らが学び、日々の指導に生かす。
- 差別的な行動が見られた場合に指導するが、対症療法的な対応に終始せず、道徳や特別活動において、考え方を理解したり、実際に考えたりする場面をつくる。
- エリア会議やパートナーティチャー活用事業に積極的に関わり、専門性を高める。

用語解説

- インクルーシブ教育～人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が、教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされる。
インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で学ぶことを追求すると共に、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズのもっとも的確に答える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校と言った、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である。
(上記 文部科学省)
- ユニバーサルデザイン～文化・言語・国籍の違い、老若男女と言った差異、障害・能力の如何を問わず利用することのできる施設・製品・情報の設計
(上記 ウィキペディア)
- エリア会議～苫小牧市は広域で学校数も多いため、特別支援教育に関わって近隣校でのエリアをつくって会議を持っています。
- パートナーティチャー活用事業～養護学校の先生からアドバイスをもらうなど、専門家を活用する事業。

(5) 心を育て、生き方を考える読書活動の推進に関して

保護者アンケート

		Aとした割合			A Bの割合		
		24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
11	朝の読書や読み聞かせも含めて、お子さんに家庭での読書習慣が身に付いてきましたか。	26.9	30.0	31.3	64.4	68.9	68.3

子どもアンケート（家庭で記入）の結果

		30分以上の割合			1時間以上の割合		
		24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
4	普段1日にどれくらい読書しますか	29.3	24.8	29.0	10.4	5.6	10.6
		全国6年生 38.4			全国6年生 18.2		

教職員（内部）アンケート

区分	評価項目	評価の観点	24年度	25年度	26年度
	読書活動	図書室の環境整備や運営等、子どもの読書習慣の育成する手立てが図られたか。	3.2	3.3	3.3
		市中央図書館との連携や活用が図られたか。	2.8	2.9	3.2
		読み聞かせボランティアや図書ボランティアと、効果的に連携できたか。	2.9	2.9	3.2

○保護者アンケートでは、A回答の割合は増加しているものの、AB回答では、横ばい状態である。また、本校児童の読書時間を全国の6年生と比べると明らかに少ない。

教職員（内部）アンケートの数値が上がっているのは、日常的に活動している図書ボランティアサークルや学級PTAによる朝の読み聞かせの印象が良いためと推察される。

- 児童の読書習慣を確実にさらに向上させるよう取り組みを進めたい。
- 耐震化工事終了とともに、図書室の整備をする。
- 蔵書数アップの願いを行政へもしていかなければならない。

(6) 校務の情報化

教職員（内部）アンケート

区分	評価項目	評価の観点	24年度	25年度	26年度
	ICT教育の充実	教育の情報化に向けた教育環境整備が計画的に進められたか。	3.4	3.6	4

○ICT教育の充実に関しては、3年間で確実に評価があがっている。評価活動における「通知表の電子化」も3年間高評価である。

→ICT機器の活用の授業づくりにおいては、平成25年に研究の成果としてまとめた「ICT機器を効果的に活用するために 苫小牧市立北星小学校」をスタンダードとして活用したい。

→教科書が変わる年となることから、デジタル教科書の更新やd-bookを活用した教科書のデータ化など環境整備を進める。

→苫小牧市が導入を決めた教師一人1台の校務用PCの導入・整備に関わっても先導的な取り組みをしたい。

→今年度から積極的に始めたHPについて、日常的な「北星日記」の更新のみならず、研修の報告や各種たよりなどをタイムリーに掲載し、情報発信を続けたい。

(7) キャリア教育の推進

キャリア教育について意識化するために全体計画を作成し重点に入れている。次年度は、不備が指摘されるなどした、「体力向上計画」「学校安全計画」「環境教育全体計画」「人権教育全体計画」について整備し、取り組みを通して改善を図りたい。

Ⅲ 具体的な実践項目から 特に「いじめ」「不登校」に関わって

①いじめ・不登校問題に関わって

- 「いじめ」「不登校」に関わる問題やその他の問題行動等について校内支援委員会兼いじめ防止対策委員会を7回開催し、情報交換を行うとともに、問題に対しては、組織的な対策を講じ取り組んできた。校内委員が、学年に情報を環流することにより共通認識に立って、取り組めた。
 - 「いじめ問題」に関わっては、前年度末に策定した全体計画を共有するとともに、同じく策定した「学校いじめ防止基本方針」を、学校だよりやホームページでも周知し、それに沿った対応を行った。
 - 「いじめ」問題については、年間2回のアンケート調査とそれを基にした個別の面談を幸施することにより、子どもたちの現状をいち早くつかみ、対応することができ、実施にして、重大事案となるようなことがなかった。
 - 「不登校」に関しては、校内委員会で共通認識に立ちながら対応策を協議し、結果として家庭やSSW等関係機関との連携も取ることができた。
- 「いじめ」問題については、次年度も、「全体計画」と「基本方針」に沿った対応を基本として堅持していく。また、対処療法的にならないよう、学年・学級づくりや集団づくり、児童会や道徳指導の面からも取り組みを進める。
- 「不登校」問題に関しては、日常的な子どもの居場所づくり、良好な学級づくりを基本にしつつ、個々の様子にアンテナを張り、校内支援委員会や必要に応じて関係機関との連携を図って解決を目指していく。

Ⅳ 各分掌等における具体的事項

①危機管理体制の改善

- 今年度、集中豪雨（いわゆるゲリラ豪雨）時の対応が問題となり、全市的に見直しを行った。
- 次年度以降、突然、局所的に降り出す豪雨時の対応を、見直した内容を土台に行っていく。
- 本校にあっては、気象情報を注視しつつ、特に、豊木川及びその周辺、苦小牧川及びその周辺の状況についてアンテナを張り、近隣校、校区町内会とも連携を取れるようにしていく。
- 暴風や暴風雪については、市教委・校長会と連携し、全市的な判断を念頭に置きながら、判断し周知していく。
- 昨年からは始めた緊急時のメール配信について、次年度も継続する。よりよいシステムの利用について、市による校務用PCの配備やそれに伴う校務支援システム導入の状況を見定めながら進める。全家庭のメール配信システムへの登録をお願いしたい。
- 兄弟の有無しで分けた「連絡網」は次年度も活用する。メール登録していない列を作るという声があったが、メール登録者は、その時々で変化するのでできない。（学校側に少々手間があっても、一人として漏れ落ちがないよう連絡体制をとるのが大前提。）
- 「緊急時メール配信・電話連絡網の活用について」を次年度も配布する。下校時刻を変更しての集団下校は極力行わないようにするが、緊急時には、「全校一斉下校・教職員通学路巡回指導」「学年一斉下校・教職員通学路巡回指導」「地区別集団一斉下校」を状況に応じて使い分ける。
- 電話もメールも緊急時には使用できないこと（停電や混雑）があり得ることを心構えとして持つ。
- 次年度は、学年に「不審者・変質者対策」の指導を実視する。
- これまで9月に実施してきた避難訓練（地震・津波想定）は、11月5日（津波防災の日）に実施する。
- 危機管理マニュアルの周知徹底を図る。
- 危機管理黒板を次年度も有効に活用する。

②教育課程の改善

- 教科書が変更になる年度を迎え、今年度中に新カリキュラムを作成。国語デジタル教科書の購入とd-Bookによる他教科書のデータ化を行う。
- 今年度の実践の成果を教育課程改善委員会において整理し、改善に生かす。
- 次年度、6年生の余剰時数を50時間以上確保する（異常気象による臨時休業やインフルエンザによる学年閉鎖に備えるため）。卒業式を遅らせることもあり得る。

- 市内統一学力テストが、6年生にも実施されるので時数を調整。
→次年度管理棟、特別教室（理科室や図工室や家庭科室）の耐震化工事が行われ使用できない期間があるため、教科単元の入れ替えなどが必要。
→今年度、新たに取組んだ「総合的な学習の時間」の内容（福祉関係等）を次年度計画に反映させる。
→次年度、全校音楽の時間を設定する。
→1・2年生の生活科について連携して行う内容を検討する。
- ③体力向上
→今年度の取組みをベースに、新年度カリキュラムを整理・改善する。体育授業で行うこと（的を絞った体づくり運動、冬季スケート）、短縄跳び・長縄跳び・一輪車など伝統的な取組んでいることを計画的に。新体力テストは、年2回（3年生以上全種目）実施。体力手帳も活用する。
- ④補充学習
→長期休業の取組みを次年度も継続する。
- ⑤学年会計等
→私費会計事務処理要領に沿って行い、年度末には決算を保護者に報告する。
- ⑥参観日・家庭訪問
→参観日は次年度も今まで通り実施。保護者アンケートの記述に教育相談の希望があったが、「教育相談は、原則いつでも可能」というスタンスで対応する。
→家庭訪問は、児童数減少と時数確保の観点から午前授業を減らす。
- ⑦宿泊学習・見学学習
→5年生は、宿泊学習があり、見学学習は原則行わない。
→宿泊学習（次年度は日高予約済み）について、行き先等の検討をしていく。
- ⑧校内掲示・作品展
→次年度も耐震化工事が続くため、各学級展示となる見込み。
- ⑨全校朝会
→次年度、「校長講話・分掌連絡（生徒指導部から等）・全校合唱」を基本に朝の時間で、隔月実施を計画。
- ⑩コンピューター室の整理
→サーバー管理・児童名簿の更新・クラス編成・転出入対応は情報部で行う。
- ⑪ホームページ更新
→北星日記の更新スパンを後退させない。また、各分掌・係による情報発信（生徒指導だよりや安全指導、研修の内容等）を積極的に行う。
- ⑫携帯電話などの持ち込みについて
→基本的に校内への持ち込みは不要というスタンスに変わりはない。子どもの居場所確認（GPS機能）のため何としてもと言う家庭に関しての対応を明確にする。
- ⑬児童会活動
→児童数減少に伴い活動を見直している。次年度も、今年度程度の活動を計画したい。
- ⑭清掃指導
→廊下清掃に「モップ清掃」を取り入れる。
→トイレ清掃を児童・教職員で行っているが、PTA一役にも入れてもらえないかPTA組織を通して依頼する。
- ⑮給食指導
→牛乳パックの回収の手順について原則を守る。
→給食放送をきちんと聞く。
→給食・清掃の時間を守る。
- ⑯かぜの子指導
→次年度も継続実施。

⑰保健室来室状況

○4～12月 外科471件（前年530件）
内科302件（前年322件）
○4～12月 病院受診事故 33件（前年21件）
打撲9 捻挫6 歯・口5 挫傷3 擦過傷3
脱臼2 裂創1 骨折1 刺傷1 関節痛1 気管支炎1

⑱施設整備状況

○60インチテレビ（4・5・6年）へ
新電子黒板60インチ（学習室）へ
教室授業用PCをWindows7へ更新（新国語デジタル版に対応できる）

→次年度は、校内ICT整備3年計画を進めつつ、音楽・体育・特別支援教室等で必要な備品も整備しなければならない。
学年教材園整備のため耕耘機を管理備品として引き続き要望する。

⑲節電・リサイクル

→必要でないところは確実に節電する。
→上質古紙のリサイクルを継続。

⑳時間外勤務縮減や公務の効率化

→市による校務用PCの配備やそれに伴う校務支援システム導入の状況を見定め、職員終会や職員会議の持ち方、通知表や指導要録作成を含めた評価システムの利用、出欠管理や転退入事務等々について検討し進めていく。
当面は、月・水・金の職員終会を継続。
→定刻退勤や定刻退勤週間などの取り組みを意識して行う。
→職員会議の隔月実施も当面継続。夏季・冬季休業に会議を設定すること、年度初めは、始業前に新年度経営体制を確立することを継続。

㉑サービス規律の保持

○今年度、職員のサービスに関わる事故がなかった。
→引き続きサービス規律の保持に努めるとともに、諸帳簿の処理、新たな制度等について周知理解を図り、適正な運用に努める。
→各の動態等がわかるよう、職員室黒板への記入や月行事の掲示をしっかりとる。（不明だと補欠体制や緊急時の対応で支障が出る。）
→施錠・解錠について管理体制をきちんとする。

㉒その他

→耐震化工事が続くため、次年度ワックス掛けは基本行わない。

V 学校関係者評価会議にて

学校関係者評価会議～用語解説は9ページ

今年度は、2月17日な実施。出された意見や実態分析は、それぞれの項に反映した。

○会議の後半で、コミュニティスクール的な発想に立った前向きな意見が多数あった。

- ・我が子中心に見ていくと、卒業とともに学校との関係は終わってしまう。地域の学校として見ていけば、生涯関係することとなる。地域の人々の目は長い。
- ・各町内会と学校のそれぞれの関係から、連携した町内会と学校の関係で物事を考えたい。
- ・学校が主体となって、各町会の人が集い、「北星小を語る会」とか「地域と子どもを語る会」とか、「防災訓練」とかできたら良い。
- ・上記の発想となった時、苦小牧は、中学校区と小学校区の関係でやりづらい面がある。
- ・今年もそうしたが、PTA北星フェスティバルでは、PTAの枠を超えて、地域にも案内を出した。次年度もそうしていきたい。地域の人々もフェスティバルの何かしらに参画するなどしていただけたらと思う。
- ・早め早めの打診や相談が重要だ。それぞれ組織だから突然は動ききれない面がある。

→地域が成熟してきているからこそその発想が多くある。何ができるか今後も相談し、地域力を高める方向で協力できたらと考える。

V 保護者アンケートでの記述に関して

以下に、保護者アンケートの記述によるご指摘に関して、上記各項目で触れられなかったことに関して回答します。

- 簡単に人に暴力をふるってしまう子がいるので、なぜ暴力はいけないのか等、相手を尊重できるように学級単位だけでなく全体で取り組んでほしい。
→学級における道徳指導や集団づくりを大切にするとともに、状況に応じて学年集会による指導なども行います。また、次年度より計画的に全校朝会を行うので、そこでの指導や啓蒙も行います。
- 通学路や帰宅時刻を守る。買い物などのルールなど、細かいことですが守れていない様子が時々見受けられるので、再度確認、指導をお願い致します。
→継続して指導・声かけをしていきます。
通学路を守ることに关しては、ケガや事故があった場合に保険がきかないなど問題のない物守る場がありますので注意が必要です。
買い物ルールなど、学校でも指導しますが、家庭教育でも重要という認識を持ってもらいたいと考えます。
- アンケートの記名式について
→過去に、あまりに無責任な書き込みが多かったため、記述式としています。子どもがよりよく育つ、学校がよりよくなるという観点で記述してほしいと考えています。
- 朝早く（6時台）留守電でも繋げませんか。仕事に行くのが早いため、伝言だけでも残せると助かります。
→申し訳ありませんが、職員の勤務の関係と予算の面から難しいです。
- 悪天候での休校や早い下校となった時、仕事をしている保護者のために、子どもたちをあずかってもらえる環境を整えてほしい。仕事をしている人には、メールを確認できない時もあるので、連絡してほしいです。
→下校時刻を变えろということとは極力しないように対応しています。が、そうなった場合、連絡がつかないとか家に入れないというお子さんは、学校にとどめていませう。一方的に帰すということはありません。
緊急メール配信の後、受信確認のないところへは必ず電話連絡を入れています。連絡がなかったとしたら学校の落ち度です。申し訳ありません。保護者に連絡なしで帰すということとは基本的にあり得ません。
臨時休業については「安全配慮のために登校させない」と言うことですのでご理解をお願い致します。
- 携帯電話を使って連絡を頂いているのに、電話がすぐかかってくるのはどうかと思う。仕事でとれないことも多い。メールはありがたいです。
→下校後の緊急連絡は、電話連絡網とそれを補うメール配信となりますのでご理解下さい。
→在校時の緊急連絡は、メール登録者にはメールで連絡、開封確認が来ない場合には電話しています。メール登録されていないところへは電話しています。
- クラス連絡網について、やはり全員の電話番号がわかるようにしてほしいと思います。
→電話番号を知らせないでほしいというご家庭が現実に有り、そのような場合には、「列ごと」で理解してもらっています。

※その他にもご指摘を頂いておりますが、7ページでも書いたように、否定的なご指摘が限りなく0になるよう、日常的なコミュニケーションを大切にするとともに、説明責任を果たしていくよう努めたいと考えます。様々なご意見ありがとうございました。